

**神奈川県**  
**保険医新聞**

発行所 神奈川県保険医協会 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2 (TSプラザビルディング2階)  
電話045-313-2111(代表) F A X 045-313-2113 横浜中央郵便局私書箱第319号  
購読料 一部300円(会員の購読料は会費に含まれています) 発行人 田中麻衣子

診療報酬改定に伴い、事務局が繁忙期となるため、下記期間は電話による問い合わせ時間を変更いたします。

会員のみなさまへ  
2026年4月1日~同年7月末日まで(予定) (現行)9:00~17:00 → (変更後)9:30~16:00

おしらせ

なお、診療報酬改定については当会ホームページに「診療報酬改定特設ページ」を設けています。よく寄せられるご質問や、疑義解釈などを随時掲載していきますので、ホームページも是非ご利用ください。

神奈川県保険医協会



医科・第二次新点数研究会

# 6月1日より診療報酬改定

医科・歯科  
新点数の動画配信中



笠議員

また、「ストップ!患者負担増請願署名」(OTC類似薬の追加負担反対)の紹介議員を受諾した笠議員・牧山弘恵議員(参・立憲)・福島瑞穂議員(参・社民)には、3月より取組んできた合計1万14筆(5月20日集約時点)の署名提出を行った。全国では27万672筆を集約した。行動時には、健康保険法改定案

医科・第二次新点数研究会

歯科・新点数解説

医療用手袋(ケロップ)の供給状況等に関する協会調査について、小池晃議員(参・共産)が6月1日の参議院決算委員会で詳しく取り上げ、医療機関に対する財政支援の必要性を訴えた。

小池議員は医療物資の供給不安と価格高騰を明らかにした協会調査を紹介した上で、「医療用手袋の放出だけでなく、「財政的支援が必要」と言及。今次診療報酬改定率には今の中東情勢が反映されておらず、2027年度での加減算では「対応が一年後になる」と指摘。「期中改定をすべき」と迫った。

これに対し上野厚相は、「今後の経済物価動向が大きく変動し医療機関等の経営状況に支障が生じた場合には、27年度予算編成で加減算を含む必要な調整を行う」、「足元の経営状況について調査をする」と答

## 小池晃議員が協会調査取り上げ国会質問 「期中改定をすべき」

上野厚相「必要に応じて」

また、「ストップ!患者負担増請願署名」(OTC類似薬の追加負担反対)の紹介議員を受諾した笠議員・藤田・宮澤・小柳各理事が参加し、笠浩史議員(衆・中道)・金村龍那議員(衆・維新)秘書と懇談した。

主な要請項目は以下の通り。▽診療所の経営状況の改善、▽OTC類似薬への患者負担の追加(薬価の25%)中止、▽原油の価格高騰に伴う医療用資材の不足・価格高騰対策の3項目。

笠浩史議員は地方議員含め3党(中道・立憲・公明)でアンケートを実施し、政府に補正予算の編成を求め要請を行ったとした。6月初旬には編成される想定として訴えた。

## 追加負担撤回を

笠浩史議員

十分として、診療への影響はむしろ、6月までに終える必要がある学校健診にも支障があると、抜本的対応を求めた。

笠議員は地方議員含め3党(中道・立憲・公明)でアンケートを実施し、政府に補正予算の編成を求め要請を行ったとした。6月初旬には編成される想定として訴えた。

## 署名1万14筆を国会に提出 OTC類似薬の追加負担撤回を

5・21国会行動

署名1万14筆を国会に提出

OTC類似薬の追加負担撤回を

その2日後の28日の参院厚労委員会にて、間保険局長はこれまでの議論の経緯や立法目的・立法事実などを踏まえて「規定の趣旨は薬剤のみを対象としたものと解釈している」と改めた。この問題性について、当協会は5月19日の政策部長談話等で先駆けて指摘をしてきた。参院本会議は翌29日に行われ、与野党の賛成多数で可決、成立。自民、維新、国民、参政党は賛成。立憲、公明、共産、れいわは反対した。

OTC類似薬の新たな患者負担は来年3月から開始される見通し。具体的内容は今後有識者が検討する。改定法はこの他に▽分娩の一律的保険給付、▽後期高齢者医療の窓口負担・保険料への金融所得の反映などを盛り込んでいる。

つつも、「物資不足は速攻で対応すべき」と現場の混乱に理解を示した。また、笠議員は「OTC類似薬の追加負担反対」署名の紹介議員を快諾。3月から5月までに集約した署名を手交した。

金村議員秘書・上垣氏との懇談では、OTC類似薬の追加負担の中止を要請。現役世代における社会保険料の負担軽減を謳うが、OTC類似薬で治療されるアレルギー系疾患や婦人科系疾患等は現役世代に多く見られ、実質的には負担増だと訴えた。

## 杏林往来

いま「直美」を選ん医師が増加している。直美は初期研修後に直接美容医療へ進む医師を指す俗称で、ある試算では年間2000人に達するともいわれている。▼なぜ若い医師は直美に惹きつけられるのか。最大の理由は働きやすさにあるように思う。高収入が約束され、夜勤がなく、労働時間の調整も利きやすい。さらに患者の満足度が分かりやすい点も魅力だ。SNSなどで華やかな仕事ぶりが若手医師の憧れを後押ししている可能性もあるだろう。▼それに比較すれば保険診療の現場には派手さはない。しかし実直に患者と向き合い、診断や治療方針に頭を悩ませる時間には、医師としての確かなやりがいがある。だが現実はいやがいがなければ語れない。時間の制約や給与面で美容医療に劣る点は否めず、昨今叫ばれている働き方改革も医療の現場では形骸化し、実効性を伴っていないケースが多い。医師が疲弊する現状を放置すれば、医療崩壊を招きかねない。医療の根幹を支える現場が、専門性を磨きながらも健康的で魅力的な働き方を実現できる環境へ舵を切れるのだろうか。直美という言葉は眺めると、私たちは医療の持続可能性について、改めて問い直すべき時期に来ているのではないかと。若い医師がどの道を選ぶのかという問題の背後に、医療全体の構造的な課題が潜んでいるように思える。